

十二月の幼兒生活

東京府女師附屬幼稚園 卜 部 た み

十二月の主材

○學 藝 會

○十二月生れ誕生會

○十二月の町

(歳の市、賣出し、冬至、クリスマス、大晦日等)

○十二月の庭園其他

(吹雪、冬枯、冬木立、枯野、寒月、霜、つら、霜どけ、氷、ダリヤの球根、其の他の移植、霜よけ、冬の花、果物、飼育動物等)

○十二月の家庭生活

(正月の仕度、餅搗き、冬休み、かるた、羽根つき、凧あげ、すご六、晴着の仕度、クリスマス等)

○玩具祭り

玩具祭りについては本誌第二十七卷第十一號に記したが、我が幼兒兒童に年の暮として楽しい集りである。クリスマス、忘年會、懇親會等の一つにした内容を持つた催しをせしめて、子供の生活になくはならぬ玩具を中心として、それを最も教育的に扱ひ、尙玩具に對する幼兒らしい感謝の念、愛護の心持を養ふにあり、又之を機會としてその前後の生活が、保育過程として充分意義があり、又家庭と協力して幼兒の生活の内容を一層豊富ならしめるのである。

曜 週	1	2	3
	<p>自由遊び (羽根つき、焚火、スキップ かるた等) 赤頭巾の話より狼ごっこを 盛んにす 今日よりストップア取附、使用 (その注意) 談話(羊の毛)毛糸毛織の話 自由繪お話あそび(親雀小雀) 遊戯唱歌(練習)</p>	<p>自由遊び お話遊び(親雀小雀) 唱歌(練習) 明昭幼稚園々兒來訪(共に 遊戯をなす) 食後アンデルセン中の(十 二ヶ月のお容様)を讀みき ます。 米國の子供さんに贈る繪を かく。</p>	<p>自由遊び 米國への贈物の手技つどき 明昭幼稚園からのお迎をう け銀杏寺に行く、お迎をう 散り敷く銀杏の葉の上にこ ろ落葉拾ひ、葉つなぎ、葉の 色調べ等 繪(銀杏の木) 唱歌、遊戯(夕日、其他)</p>
	<p>學藝會 お話あそび(親雀小雀)幼一 二、 唱歌及遊戯 (オモチヤノマアチ、ジャ ンけんぼん、(幼一) くんげんぼん、(幼二) お月様、蝶々(幼二) 樂隊</p>	<p>自由あそび 學藝會について印象深かつ たものゝ話(談話、手技) (ボール投げ、シヤンケン取 り、輪くぐり、リレー等 墨の室にて落音器をきゝま ることとお話遊び等をなす。</p>	<p>自由あそび(まゝごと) 幼兒知能検査(本校石川敬 散歩(論) 唱歌(お容様) 本校及び寄宿の庭の觀察よ りついで本校門前往來を みる、その景をかくもの (家作り)を初むるあり(終 りまでつどく)</p>
	<p>日曜生活發表 その繪 家作りつどき 出来上りし 家をならべる、 (家の他に自動車、樹、電車 人等順次に増す) 机を集めて町作りをはじめ 唱歌(お容様)其他遊戯練習</p>	<p>暮の町の話、買物の話 觀察 校門―江戸川―平込寺町通 り―暮の町的情景をみる) ―毘沙門天(鳩)―築土八幡 ―(高森見晴、枯木立) 食後自由遊(賣出しの軒なみ の繪多し)</p>	<p>自由あそび 玩具まつり及び誕生會の仕 度、裝飾及び贈り物作り 一方に於ては町作りの完成 を期す。 自由あそび まゝごと、狼ごっこ、賣り 出しごっこ等</p>
	<p>(玩具祭り 十二月生れ誕生會 挨拶、贈物、請話、唱歌、遊戯 お話遊び、福引、賣さがし 自由遊び 保護者會</p>	<p>自由あそび 寫眞、玩具を各室にはこび 飾る、 玩具をとりかへて遊ぶ (各自の玩具寫眞について の話讀き) 談話(年の暮について) 各自の出品、製作物を纏め しむ 唱歌、遊戯(練習)</p>	<p>終業式</p>

六	五	四
<p>自由あそび</p> <p>火鉢の側で紙をあぶりながらクレオンで繪をかくうち油繪の如くなる(自由畫)</p> <p>油繪展覽會</p> <p>學藝會の練習</p>	<p>自由あそび</p> <p>學藝會當日の冠作り(手技) (雀頭、雀の巣、各自作る)</p> <p>唱歌、遊戯</p> <p>(夕日、汽車、リトルロビン、フィンガーダンス、雀、雨がふります等)</p> <p>談話(不思議な筆)</p>	<p>自由遊び</p> <p>學藝會豫行演習</p> <p>お話あそび、唱歌遊戯、樂隊、其他の演技をみる</p> <p>散步</p> <p>寄宿庭</p> <p>(バラ、椿、山茶花、むかご洞、ぼだい、樹の枯葉等)</p>
<p>昨日の記憶畫、及びその話</p> <p>家作りの続き、第一部談話會</p>	<p>植物園</p>	<p>自由遊び(家作りつどき)</p> <p>談話(トロヤの木馬)</p> <p>(つどいてその繪をかく、繪について話さしむ)</p> <p>(キビガラの馬を作る)</p> <p>唱歌(お客様其他)遊戯練習</p>
<p>自由遊び</p> <p>昨日のつどき、玩具、寫眞陳列、おくりもの包装、手紙かき等、プログラム作りクリスマスツリー作り、遊戯、お話あそび、</p> <p>唱歌(練習)</p>	<p>自由あそび</p> <p>玩具祭り仕度</p> <p>寫眞、玩具の陳列</p> <p>説明を發表或は繪にかく</p> <p>手技(お菓子入れ角香箱)</p> <p>談話(樅の木)</p> <p>リレー、巾とび等運動</p>	<p>自由あそび</p> <p>町の完成(幼一組にみせる)</p> <p>贈物作りつどき</p> <p>唱歌(新年の歌をきかしむ)</p> <p>唱歌(お客様、おられ)其他</p> <p>遊戯(練習)</p> <p>談話(瓜子姫子)</p>

保育手帳から

六二

十二月二日（自由遊び中）

俊次（五年五ヶ月）　晏（五年五ヶ月）

寛方（五年二ヶ月）　貞子（五年一ヶ月）

澄子（五年六ヶ月）

俊次「俊はい、石を見つけたよ。」

晏「俊ちゃん僕にね。」

俊次「うん、あげる。」

貞子「俊ちゃん、あたしにもね。」

俊次「だめ、あげない。」

寛方「俊ちゃん僕に頂戴ね。」

俊次「あゝあげる、君は男だから。」

澄子「あら、あたしには？」

俊次「あげない。澄子さんも女だから。男ならど

んなに大きい人でも、小ちやい人にもあげる。

だけど女はあげられない。」

髪の毛さへ長くすれば男でも女になれると主張し

男も打交つておまゝ事をし、女も三輪車に乗り剣を振り廻してゐる幼児の世界にも、そろ／＼「女なるが故に。」を以てされる區別は芽生えて参りました。

十二月六日（縁先に箆を敷いておまゝ事をしながら）

年齢（五年一ヶ月より六年未滿のもの）

裕子「お母様。赤ちゃん連れてお医者様へ行くのでせう。」

あや「さうですよ。早くお仕度をなさい。」

勇次「僕は醫學博士だから注射してあげるよ。」

裕子「赤ちゃん、早くなさい。いゝおべべに着かへるのよ。」

雅子「奥様、お客様でございます。お通し申しませうね。」

奥様のあや子「チョッ。」と舌打して、帯と懐の間に手をさし入れるまねして。

あや、さうを。ほんとにいやになつちまふわね。

ごはん時にばかり人が来て。ねえや仕方がないからお井でもいつておすいものこしらへて頂戴。」

雅子「はい。かしこまりました。」

十二月七日（傳通院へ散歩の歸途）

恒子（四年十ヶ月）「先生あれお墓でせう。」

卜部「さうですよ。」

恒子「お墓には死んだ人を埋めるんでせう。」

卜部「よく御存じね。さうですよ。」

恒子「先生、誰でも人は死ぬと神様になるのね。」

卜部「さうですね。」

恒子「神様は偉いのでせう、それでなぜ偉い神様を地めんの下に埋めてしまふの？」

こんな問ひにあつた私ははたしてどんな答をしたのがよいでせうか。毎日の保育は總て保母自身の人格修養信念から生れて來るといふ事を痛切に

感じ、同時に強い刺戟を與へられるので御座います。次に幼児のお話の中から續きを記させよう。

季子（四年二ヶ月） 四月二十七日昨日の植物園行に就て發表、おたまじやくしが居て猿がゐたの。大きな金魚と蛙を見たの。

同人（四年三ヶ月） 五月九日

（一）ね、或とこに猿とライオルが居てごちさう食べようと思つたら、ピョンと犬がたべちやつたの。食べるもんが無いからうちへ歸つたの。

季子が纏まつたものを話したのは是が最初であります。次々に話す度に長さが長くなり、従て内容は複雑になります。が混沌として來てゐるのが知れます。

（二）同人五月二十日

或所におばあさんとおぢいさんが居たの、お婆さんは川に洗濯に行つてお爺さんは薪木をとりに行つたの、桃が流れて來たの、それを持つて歸つ

て、お爺さんの歸るのを待つてゐたの、お晝になつたから桃を割つたら中から桃太郎が出て來たの
 (三)同人(六月六日)

ね、あのね或處にポウフラが居たの、ポウフラがあつてね、人間が來てお家へ持つて行つて食べたの、今度蟹が袋を持つて來てね、預つて頂いていつたの、それに蠅が入つて袋を開けたら蠅がなくなつて、今度又何か取つて來て其袋に入れて又人間の所に置いて、又なくなつて又入れて來たら又なくなつてね、今度は山の中へ持つて行つて食べたの。

(右は狐の旅の談話をきいてから數日の後に話したものの)

(四)(五)略す。

(六)同人(七月三日)

あのね或處にお山があつてそこに鬼が居て、桃太郎さんが來たら鬼がひつかかうとしたら、桃太

郎さんの方が勝つて色んな物貰つて歸つたの、おしまひに犬が來て「桃太郎さん。」と言つたの。びつくりして見たら犬だつたの。向ふへ行つて木の枝に寝てゐたら桃太郎さんのお母さんが死んであとから熊が來てそれを食べたの、今度違ふ熊が來てたべようと思つてずつと行くと大きな木の所へ來たの。犬が下で寝てゐて七面鳥が一等上に乗つて寝て、其下に猫がねて朝になつたからずつと歸つて、お腹が痛いからと言つて藥をのんで歸つたら御馳走が一ぱいあつて、ペロペロ食べたからつばになつたの、今度おしつこをして歸らうとしたらどぶに落つこつて川の方へ流れていつたの。そいでおしまひ。

桃太郎の話をしてゐるうちに前に聞いた話のブレイメンの音楽師、猫と鼠等が次々に思浮び、それに自分の腹痛の事、幼稚園をかへりがけか

ら家へかへるまでの生活事項等の思浮んだものが此話を作り出してしまつたものと想像されま
す。

(七)(八)略す。

(九)同人(九月七日)

太郎と象と一緒に植物園へいつたの。夕方になりさうだから早くうちに歸らうと思つて、象に御馳走をやつたの、夜になつて寝たの、又起きてね顔を洗つてね、太郎さんがごはんを食べたの、象も食べたいと思つて食べたの。それから二人で紙をとつて來たの、貝を箱に入れたのそれで今度象と一緒にね植物園へ行つて又遊んでね、それから夕方だから歸つて來て寝たの。そしてら向ふからお日様が明るいの。それが夢だと思つてゐたら本當で釣棹を持つて川で象とお魚を釣つてゐたの。もう一度顔を洗つて御飯を食べて口をすゝいでそれから魚を取りに行つて夕方になつて歸つたの。向

ふへ行うと言つたら熊も行くとういつたので色々のもをもつて動物園に行つたの一緒に遊んでゐると熊が怒つたので、はねかへり泳いで向ふへ行つて窓から眠つてしまつたの。黒い熊がお砂場まで遊んでゐたらだん／＼大きくなつて、今度はおつかない熊になつてお刺身を食べたの。今度は大根をちぎつて來て夜の御飲に添へて食べたの。夜寝てね向ふへ行つたのそいで象も向ふへ行こうと思つたら兎が居たの。そいで兎のお家に行つたの、兎に天國につれて行つてもらつて御馳走になつたの。今度はお菓子をお土産にもらつて一寸寝るとお家の近くに歸へつて來てゐたの、向ふからお日様がお呼びになつたの。顔を洗つていらつしやいといつて、それで太郎と象は御飯を食べて行つたら、本を讀んで少し遊んでから長い道を通つて象と一緒に三越へ好きなものを買ひに行つたの。象と遊んで砂を買つて來て砂の上に寝て、朝は顔を

洗つて御飯を食べて、お晝は朝顔に花を咲かせて
幾つ咲 たか數へたら七つあつて、水をやつたら
良く開いたの。花がもう一つ咲いて家へ歸へると
待つてゐたの。今度は向ふの方の電車に乗つて、
曲つて行つたかと思つたら、電車はちやんといつ
て自動車がまがつたの。象と一緒に海岸へ行つて
象が「面白い。」といつてお魚を澤山釣つたの。餘
り澤山釣つたので鼻がいがんでしまつたの。少し
すると眼が覺めて、夢だつて、お家で人形と遊ん
でゐたの。

右の話を初めてから終る迄の時間は實に二十分
間で話が終ると聽いてゐた十數人の子供はため
いさを致しました。速記する者もなか／＼困難
でした。此の種のはあと二三ありますが略しま
す。

